

行政視察報告

令和6年2月20日（火）～ 2月21日（水）

福祉環境委員会

1、視察目的 / 視察先一覧



(1) 鳥取県北栄町

- カーボンニュートラル施策(脱炭素ロードマップ)及び健康寿命延伸施策としての住宅改善(健康省エネ住宅)



Shimane General
Medicine Center

(2) 島根大学医学部附属病院総合診療医センター @島根県出雲市

- 医師育成及び確保の県内における活動紹介並びに健康寿命延伸の考え方及び地域の取組等



e-GRID

(3) 株式会社イーグリッド@島根県出雲市

- 医療 MaaS

2、選定理由



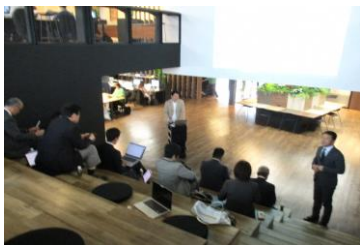
(1) 鳥取県北栄町

「先進的な脱炭素、省エネの取組」に力を入れると共に、健康寿命の延伸を目指した健康省エネ住宅の重要性を訴え、健康寿命延伸と脱炭素を目指して、省エネ改修補助金制度を活用し持続可能なまちづくり推進に取り組んでいる。浜田市も二酸化炭素実質排出量ゼロに向け北栄町の先進的な取組を参考に、市民とともに取り組んでいく教科書とするため。



(2) 島根大学医学部附属病院総合診療医センター @島根県出雲市

浜田圏域でも医師や診療科の不足・偏りが大きな課題であり、住み慣れた地域で安心して医療を受けられるよう、包括的医療を実践する総合診療医の必要性を感じることから、浜田圏域の医療の現状と課題を伺うため。



(3) 株式会社イーグリッド@島根県出雲市

中山間地を抱え高齢化が進む中で安定した地域医療の確保は、極めて重要な政策と考える。当市においても中山間地域の医療課題を解決するために、取組課題の一つである健康寿命延伸の参考としたいと考え、医療 MaaSの有効性の検討、具体的な実証実験の可能性を議論するため。

3、視察報告

(1) 鳥取県北栄町

【視察内容の概要】

- 「風のまち」として、早くから町営の風力発電事業を運営し、再生可能エネルギー導入と令和5年4月に脱炭素ロードマップを策定。
- 脱炭素ロードマップでは、国の指標を上回る目標値を設定。
- 家庭でのエネルギー消費を記録する事業を展開（小4が対象）。
- 気候非常事態宣言を令和元年12月に表明。再生可能エネルギーの最大限の活用と徹底した省エネ、地域でお金が回る仕組みづくり、防災にも役立つ分散型エネルギーシステムの構築に取り組む。
- 健康寿命の延伸を目指して住宅の省エネ改修に補助金を設け地元事業者による断熱改修工事を支援している。県も国基準ZEHを上回る戸建・賃貸に健康省エネ住宅の補助制度を設けている。

【ポイント】

- 具体的なアクションの提示

市民と行政が一体となり、環境問題に取り組むことが重要。北栄町で取り組まれている環境家計簿の作成は、市民一人ひとりが環境問題に日常的に関与することが促されている。

- 身近な問題との組み合わせによるアプローチ

健康問題としてのヒートショックと環境問題を結びつけたアプローチ（断熱性や機密性を高めた健康住宅の推進）は有効。市民にとって身近な問題として提示することで、より幅広い理解と関心を喚起することができる。

- 環境教育の推進

行動変容を促すためには教育が鍵。学校教育だけでなく、社会教育や家庭教育の場においても、環境教育を積極的に推進すべき。



* 住民参加型の環境イベントの様子



* 北条砂丘風力発電所（1,500KW 9基 平成17年11月完成）

3、視察報告

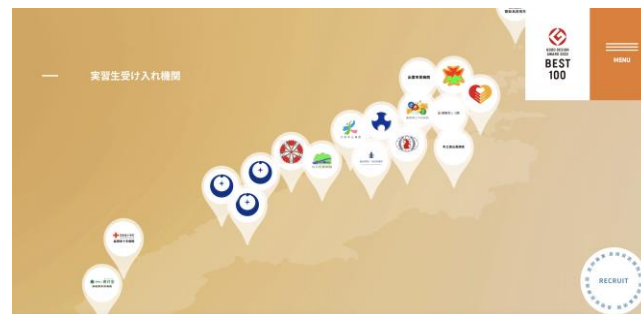
(2) 島根大学医学部附属病院総合診療医センター

【視察先および意見交換会の概要】

- 縦割りの打破がコンセプト。
- ITツールを使って遠隔でコミュニケーションを促進。
- 総合診療医の需要：多様な医療ニーズに対応するために高まっている。多職種との連携や地域医療の連携強化において中心的な役割を担う。
- 総合診療医の育成状況：島根県の総合診療専攻医割合は全国平均2%程度の中、15%近くを占めており4年連続日本一を達成。
- 地域医療：遠隔医療の拡充、総合診療医の育成強化、予防医療と健康支援の推進など、多方面にわたる事業に今後取り組む。
- 浜田市・浜田医療圏の取り組むべきこと：石見地方での医師確保が難しい理由には、医師の働き方、インセンティブの不足、地域医療への理解不足などがある。

【意見交換における発言要旨等】

- ロールモデルの確立
経験豊富な総合診療医を地域に招聘し、若手医師の指導環境を整える。加えて研修医をあたたく受け入れる雰囲気づくりが不可欠。
- 診療体制のアップデート
最新の医療技術と診療体制の見直しを通じて、効率的で質の高い医療サービスを提供すること。
- 地域環境の整備
医療提供環境のみならず地域に定着しやすいように、住宅・教育・環境の充実にも配慮すること。
- 医療ビジョンの策定
長期的な医療ビジョンを策定し、当該圏域における医療の将来像を明確にすること。



* 県内の実習生受入機関（同センターHPより）

指導医は6人

阿部 順治	北條 宣政	飯島 健二	佐藤 優子	佐藤 誠	上野 伸行
PG副統括責任者 医療統括監 務求診療所長	浜田医療センター 総合診療科部長	大浜診療所長	渡佐診療所長	PG統括責任者 医療専門監	あさひ診療所長
島根医科大学 昭和59年卒業	島根医科大学 平成3年卒業	島根医科大学 平成14年卒業	日本医科大学 平成16年卒業	和歌山県立医科大学 平成17年卒業	島根大学 平成26年卒業
千葉県出身	岡山県出身	島根県出身	東京都出身	千葉県出身	東京都出身
プライマリケア認定医	プライマリケア認定医	家庭医療専門医	家庭医療専門医	家庭医療専門医	家庭医療研修修了

* 動画などで受入機関の紹介が行われている
(同センターHPより)

3、視察報告

(3) 株式会社イーグリッド@島根県出雲市

【視察内容の概要】

- 医療機関が継続的にサービスの維持ができるかどうかが課題。
- 日本のMaaSは世界に先行しているが、社会に浸透していないのは、技術だけを追いかけてしまったため。
- 中山間地は実験できることがメリット。
- 変化を受け入れて自ら変われるかがポイント。
- ドラレコを使った道路パトロールで人件費削減（検出率60%程度）。
- 行政と民間がいかに実験に投資できるか、市民の理解が得られるか。
- 医療MaaS：ほぼそこにいるかのように遠隔診療できる。
- マルチパーパスで行うことが重要。スマートモニターなどの活用も。
- 公共交通をいかに低コストで運営していくかが重要。
- コミュニティナースは地域づくりの最先端。それにデジタルの力を。

【ポイント】

- テクノロジーの積極的な活用

資源の減少による諸課題に対して、ITをはじめとする新たな技術を活用することでサービスの維持を図ろうとする考え方を強く持つことが不可欠。

- 目的の複合化

公共交通や看護サービスなど、地域サービスとの統合を通じて、利益を最大化することができる。

- 積極的な社会実験

地方社会の環境及び民間活力を最大限に生かすことが重要。新たなサービスを実験的に取り込む姿勢を明らかにすることで、企業とのマッチングや誘致につながる。

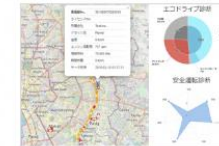
Maas/空間情報サービス開発実績

カーテレマティクス

- ✓ 車や人の位置情報に結びつく情報をキーとしたサービスを提供



バス乗降客数管理



エコドライブ・安全運転診断

ポスティング配達員管理システム

- ✓ スマホアプリでポスティング業務を見る化し、訪問業務を円滑に



配達員向けAndroidアプリ

- ・トラッキング
- ・配達条件の確認
- ・投函禁止物件の表示&チェック
- ・町丁目単位の配達エリアの表示



管理者向けWebアプリ

- ・配達員のリアルタイム表示
- ・投函禁止のチェック状況の確認
- ・配達軌跡の管理

道路パトロールシステム

- ✓ 行政（道路管理者）向け道路パトロール記録システム



パトロール員向けAndroidアプリ

- ・勤務時間、走行ルート記録、写真データ記録
- ・日報、統計データ出力
- ・パトロール軌跡の描画



管理者向けWebアプリ

- ・隊員が発信する情報をリアルタイムにチェック可能

農作物解析画像Webビューワ

- ✓ 衛星画像から作成した、農作物の育成状況の解析画像をWebGISに搭載



* e-gridが提供するMaaSに係る事業

4、考察

～今後の取組み～

【カーボンニュートラルに向けた取組みについて】

市民と行政が隔たりなく取り組む必要性が多く、委員によって指摘された。北栄町にみる**庁内および町民との協働の精神**を具現化するために、目標の共有や具体的な事業計画（現実的な二酸化炭素排出量の削減目標設定など）及び**自分ごととして関わりやすい事業構築**が必要であるとの意見が強調された。

当市でも地球温暖化対策実行計画が策定されたが、この計画の推進を追いかけるとともに、地域井戸端会などにおいて、**環境というテーマで市民との情報交換**を積極的に行なっていきたい。

4、考察

～今後の取組み～

【浜田圏域の医療について】

浜田市の地域医療における現状と課題等について理解を深めるとともに、総合診療医の重要性を改めて確認すると共に、前述の4点「**ロールモデルの確立**」「**診療体制のアップデート**」「**地域環境の整備**」「**医療ビジョンの策定**」について特に着目しながら、持続可能な地域医療のあり方について調査・研究を進めていくことを委員間で共有した。

具体的なアクションとして、**地域の医療関係者との意見交換の開催**を申し入れることとしており、上記点を中心に議論を深めていきたい。

4、考察

～今後の取組み～

【医療MaaSについて】

医療分野における革新的なソリューションと地域社会へのその実装について理解を深めることができた。また、**地域医療と交通問題の解決におけるその潜在的な役割は、地域コミュニティの支援と発展につながる**ものであることを確信した。

これらのイノベーションを地域レベルで実装するためには、技術的な準備だけでなく、社会的な準備も必要である。地域社会、政策立案者、医療提供者間の協力が不可欠。この課題解決については、**投資的なスタンスを持って、ふるさと応援基金の充当などによってその推進を図ることを**求めたい。

(了)

福祉環境委員会